

中山間地農業の作目選択

寺島正彦 (長崎県総合農林試験場)

Masahiko TERASHIMA : Selection of the Culture in Intermediate and Mountainous Agricultural Districts

1. 長崎県の中山間地農業

長崎県の中山間地域は、『農業地域類型』区分の「中間農業地域」と「山間農業地域」に規定した時、約6割の45市町村が該当し、地理的にも全域的に分布する。長崎県の中山間地農業をセンサス等の統計資料から概括すると次のとおりである。

農家戸数は県全体に対して39.9% (22,084人)、基幹的農業従事者は32.6% (19,754人)、耕地面積は38.1% (18,053ha) を占める。1戸当たり基幹的農業従事者は、0.89人で都市的地域や平地農業地域に比べて少なく、1戸当たり耕地面積は81.7aと零細である。農業粗生産額と生産農業所得の県全体に占める割合は、それぞれ28.9%、29.0%である。農業所得水準では1戸当たり生産農業所得は890千円で、県平均の72.8%、平地農業地域の55.5%に留まる。労働生産性では、基幹的農業従事者当たり生産農業所得が995千円で、県平均の90.0%、平地農業地域の83.5%に留まる。土地生産性では、耕地10a当たり生産農業所得が109千円で、県平均の76.2%、平地農業地域の67.7%、都市的地域の64.5%に留まる。農業労働力保有の状態は、65歳未満の男子農業専従者のいる農家が25.9%と極めて少なく、都市的地域の30.6%、平地農業地域の43.9%、県全体の33.3%に比べ男子生産年齢人口の流出が顕著である。農業集落は、田畑集落 (水田率30~70%) 46.2%、畑集落 (同30%未満) 36.2%と両者で82.4%を占め、田畑複合型の地目構成の地域が多く、土地利用型の水田農業を進め得る土地基盤を有する農業集落が少ない。水田の基盤整備率も27.5%と遅れている。1990年までの5ヶ年間は、農家戸数は25%減、基幹的農業従事者は24%減、耕地面積も15%減で、労働力の流出や耕地の減少が進んでいる。

また、労働力の流出と高齢化の進行を、コーホート法によって推計すると、1985年から2000年には、中山間地の農家人口は、県全体の減少分の半数に近い約41,000人 (△33%) が減少して85,000人に、また、農業就業人口は約8,600人 (△29%) 減少して21,000人になると予測され、農業労働力の減少が他地域よりも進むことが伺われる。高齢化率についても、17.1%から43.5%へと急速に高くなると予測される。

このように中山間地の農業は、傾斜地、零細、分散錯乱など土地基盤条件の劣悪性や土地改良の遅れに加え、労働力の流出、高齢化の進行など農業労働力の脆弱化から、土地生産性や労働生産性が低いことなどが指摘される。こうした地域では、個別経営として農業生産を維持できる農家が減少しており、土地及び労働力の調整を含めた地域的、組織的な農業の再編や地域の資源・特性を

活用した作目選択、さらに、高齢農業者や婦人農業者の役割の明確化が必要である。

2. 作目選択の事例

1) 北松浦郡世知原町開作地区の婦人組織による『宿根かすみそう』早出し栽培の導入の事例がある。作目選択に際しては、高齢・婦人が担い手であること、中山間地域の自然条件を活用することを前提に、集落座談会など農家と関係機関の話し合いの中から、地域の特産物、軽量作物、軽作業の栽培管理、小規模面積、集約型作物等を重視することが決められた。この経過を踏まえ農業改良普及所では、「宿根かすみそう」の早出し栽培を提案した。地域特性を客観的、具体的データで把握するため、本県農林業地域メッシュ情報から気象条件を分析し、栽培適地性をデータに基づいて農家に示し、取り組みへの誘導を図った。役場は特に集落座談会の開催、婦人組織の結成、資材の調達等に支援的役割を果たした。

2) 小規模農業地域の高齢者による軟弱野菜栽培の事例として、佐世保市農協佐世保支所そさい部会がある。半数の農家がビニールハウス等を導入し、軟弱野菜の周年栽培と降雨期の生産安定、品質向上を図っている。出荷先は地元市場で、市場からも地場供給産地として評価されている。傾斜地、零細・分散錯乱の転換田や畑地という圃場条件と、60歳代以上の経営主が60%を占める担い手条件など、立地面、労働力面で中山間地的条件となっている。この軟弱野菜栽培を高齢・婦人農業の作目として位置づけた契機として、農協が設置した野菜集出荷施設がある。共同出荷販売による価格の有利性、低温貯蔵庫利用による品質の鮮度保持、集中出荷の回避、出荷運搬の負担削減、集荷時間制限による過度な農作業の回避と健康維持等の営農・出荷改善が図られ、施設導入はこの地域の高齢・婦人による軟弱野菜栽培を支えている。

3. 中山間地農業の作目選択の課題

中山間地等の条件不利地域では、基幹的農業従事者が減少し、高齢化、婦人化が一層進み、個別経営の完結が困難となりつつあり、地域農業の再編や個別経営の見直しを図る上で作目選択の手法が必要となる。また、中山間地農業での作目選択に際して、①指導・助言・誘導・支援等に関わる農業関係者や農村リーダーは、地域の特性を的確に把握し、地域に対する共通の認識を持つことが必要である。②地域や集落を基盤とした高齢者、婦人の参加による生産組織の編成が不可欠である。③地域の特性を生かした、軽量、軽作業、小規模、集約、周年的な作目の検討が必要である。④地域農業を支援する各農業関係機関の役割の明確化と体制の確立が課題である。